

平成24年度当初予算重点分野 「元気な七尾」実現プラン2012

七尾市の将来像である「人が輝く交流体感都市」を目指し、総合計画の実現に向けた取り組みを行います。中でも特に重要な分野を「『元気な七尾』実現プラン」と位置づけ、重点的に取り組みます。

現状と課題

(1) 社会資本の整備に対応し、地域資源を活用した経済活性化が必要です。

⇒ 能越自動車道大泊IC（仮称）と七尾東IC（仮称）間が平成24年度中に供用開始（予定）となり、能登有料道路は平成25年4月に全線無料化されます。さらに、北陸新幹線が平成26年度に金沢開業するなど、社会資本整備が進み、七尾への交通アクセスが飛躍的に向上します。

こうしたことや、昨年6月の世界農業遺産への認定を大きなチャンスととらえ、地域資源を活用して七尾の魅力を発信し、経済の活性化を図ることが必要です。

(2) 市民の参画と提案による協働のまちづくりを進めるため、人づくりが大切です。

⇒ 自然環境に恵まれた、伝統文化・歴史に支えられた七尾で生まれ育ったことを誇りに思う市民を増やす必要があります。また、七尾をさらに良いまち、元気なまちにしようという意識で、活躍・活動する市民を育成していくことが大切です。協働のまちづくりを進めるための仕組みを確立する必要があります。

(3) 誰もが安全、安心、快適で、しあわせに暮らせるまちづくりが求められています。

⇒ 少子高齢化が進行する中、子育て世代や高齢者などすべての七尾市民が、日々の生活を快適に、生きがいを持って暮らせる安全で安心なまちづくりが求められています。地域防災力の強化や美しい能登の里山里海の保全、住民福祉の増進など、過疎化・少子化に歯止めをかける取り組みが必要で

地域資源と人材を活かし、住みよい七尾をつくります

(1) 地域資源を活かした魅力ある七尾の発信

- ① 好機をとらえた的確な誘客活動
- ② 受入体制の充実
- ③ 地域資源の発掘と磨き上げ



架橋30周年を迎えた能登島大橋

11ページへ

(2) 七尾に誇りを持つ市民の育成

- ① 市民が主役のまちづくりの推進
- ② 次代を担う人材の育成
- ③ 保育・教育環境の整備充実



ふるさと教育で子どもたちの心を養う

12ページへ

(3) 安全安心で住みよい七尾づくり

- ① 安全安心で快適なまちづくり
- ② 里山里海の保全とエコの推進
- ③ 誰もがいきいきと暮らすまちづくり



里山の保全に向けた取り組みを推進

13ページへ

地域経済・産業の活性化
新たな雇用の創出

七尾に愛着を持つ市民の増加
次代を担う子どもの育成

地域で暮らし続ける市民の増加
里山里海の保全と都市機能の向上



7 地域資源を活かした魅力ある七尾の発信

① 好機をとらえた的確な誘客活動

*

■ 能登の里山里海のほか地域の魅力の発信



(新) 「能登の里山里海」の発信 350万円

世界農業遺産にちなんだ周遊ルートなどを旅行雑誌に掲載

(新) 「すし王国能登七尾」の発信 100万円

首都圏でのPR広告の掲載と出向宣伝

(新) 広報総合パンフレットの作成 300万円

市外の人に七尾市をPRするためのパンフレットを作成

■ 新たな旅行形態による誘客の推進

(継) 合宿などの誘致促進 1,526万4千円

合宿、修学旅行、学会開催に対する宿泊費の一部助成

(新) 全国高等学校総合体育大会 931万5千円

競技：ヨット 開催日：8月1日～5日

場所：和倉温泉運動公園ヨットハーバー



サッカー合宿で多くの学生に利用されている「和倉温泉多目的グラウンド」

② 受入体制の充実

*

■ 観光交流拠点、インフラの整備

(新) のとじま交流市場の改修など 1億7,589万円

交流市場の改修、ガラス工房改築のための設計費用

(新) 合宿拠点の整備 800万円

能登島サッカーグラウンドの整備（実施設計費）

(新) みなとまちづくり事業費 1億2,000万円

魅力あるみなとまちづくりを推進する事業に対する助成



(新) 能登スマートドライブプロジェクト 143万円

Wi-Fi機能を備えたEV/PHV充電スポットの整備

■ 地域観光素材の魅力化の推進

(継) 北陸新幹線開業に向けての検討 51万8千円



改修される「のとじま交流市場」

③ 地域資源の発掘と磨き上げ

*

■ 新たな地域資源の発掘または再生



(新) かき殻利活用施設の整備 9,480万円

施設整備用地の造成と実施主体への建設費助成



(新) 棚田保全事業費 30万円

棚田地域の資源を活用した加工販売などへの起業支援



(拡) 環境保全型農業の推進 175万円

環境保全型農業の導入による高付加価値化

■ 既存の地域資源の磨き上げ

(新) 等伯生誕の地としての発信 805万4千円

等伯展示会、文化講演会の開催、等伯マップの作成など

(新) 能登島大橋架橋30周年記念事業費 150万円

架橋30年を機会とした地域資源の見直しと情報発信



長谷川等伯の生誕地をPR
（写真：「青雲像」（長谷川等伯像）

田中太郎作

※(新)は新規、(拡)は拡充、(継)は継続を表します。